

中小企業あきた

- 1 県内中小企業の経営状況等について懇談 1
～野見山浩平日本銀行秋田支店長が来会～
- 2 オール秋田による奥羽・羽越両新幹線の事業化を目指す ... 2
～秋田県奥羽・羽越新幹線整備促進期成同盟会設立総会が開催～
- 3 「新ものづくり・新サービス展」で成果事例を発表 2

10
OCTOBER.2016

- 組合・企業探訪..... 3
- 中小企業組合等支援施策情報..... 3
- 県況レポート 8 月分 6

- 話題の広場
- 中央会事業より..... 8
- アラカルト..... 9
- 支援団体活動レポート..... 9
- インフォメーション..... 10



TOPICS 1

県内中小企業の経営状況等について懇談

～野見山浩平日本銀行秋田支店長が来会～

8月31日(水)、日本銀行秋田支店の野見山浩平支店長等が本会を訪れ、本会藤澤正義会長ならびに伊藤邦夫専務理事と懇談を行いました。

なお、日本銀行秋田支店とは定期的に意見交換を行っており、今回の懇談は今年2月以来の開催となりました。

■ 県内中小企業の経営状況

○売上・収益、資金繰りの動向

非製造業のDI値が、全国や東北・北海道地区と比較し大幅に下回っている。その改善を図るためには、海外からの観光客を含めた「インバウンド需要」を如何に取り込むかが鍵となる。

○年初来の為替円高の影響

本会の中小企業景況調査員を対象とした円高影響調査結果によると、大多数の企業は、「影響は無い」と回答している。しかし、円高・円安いずれの場合であっても、様々な業種で影響を受けるため、日頃から経営におけるリスク対策を怠らないことが重要である。

■ 県内中小企業の雇用・賃金動向

最低賃金については、これまでにない大幅な引き上げであり、影響は大きい。

このため、個々の企業においては、生産性向上等を図るなど経営体質の強化を今まで以上に推進することにより対応することが求められる。

■ 「ものづくり補助金」の活用状況

県内の設備投資も若干だが増加基調にある中で、本会が秋田県地域事務局となり実施している「ものづくり補助金」については、金融機関も認定支援機関となり、利用する中小企業の掘り起こしを進めている。

一方、県内企業は、経営者の高齢化や廃業の増加が危惧され、今後の先行きが不透明なこともあり、大規模な設備投資には些か消極的である。

「ものづくり補助金」も今年度で4年目を迎え、これまで当補助金を活用し設備投資を行った企業では、成果が着実に現れている。当補助金による資金効果は非常に大きく、投資計画を増額し生産力をアップすることで企業間競争に打ち勝っている企業も見受けられる。今後も、長期的な視野から同補助金を出来れば恒常的な制度とし、中小企業のバックアップを行うべく、国に要望していきたい。



【懇談の様子
(右奥：野見山支店長／中央：藤澤会長)】

なお、日銀秋田支店とは今後も意見交換の場を設けることにより、県内中小企業の動向認識を共有していくこととしています。

～秋田県奥羽・羽越新幹線整備促進期成同盟会設立総会が開催～

9月7日(水)、秋田市の「秋田ビューホテル」において、秋田県奥羽・羽越新幹線整備促進期成同盟会の設立総会が開催され、佐竹敬久秋田県知事ならびに本会加藤憲成副会長をはじめ、本県選出国会議員や県内の各自治体、経済団体の関係者など約170名が出席しました。

本同盟会は、奥羽・羽越両新幹線が昭和48年に全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画に位置付けられているものの、未だその実現に至っておらず、オール秋田による両新幹線の整備促進に向け、官民挙げて強力で運動を推進していくため設立されたものです。

総会では、議案の審議に先立ち、設立発起人会を代表し三浦廣巳秋田県商工会議所連合会会長ならびに佐竹知事による挨拶の後、本県選出国会議員による来賓挨拶が行われました。

続いて、議長に佐竹知事を選出し議案の審議に入り、設立趣意書(案)や規約(案)、顧問及び本会藤澤正義会長の副会長就任を含む役員(案)が承認されたほか、国、東日本旅客鉄道株式会社等への要望活動の実施を含めた平成28年度事業計画ならびに決議(案)の全議案が満場一致で承認されました。

なお、本会では、今後とも本同盟会の一員として、両新幹線の整備促進に向け取り組んでまいります。

平成28年度
秋田県奥羽・羽越新幹線整備促進期成同盟会
決議

- 1 奥羽新幹線及び羽越新幹線の着工に結びつけるため、基本計画路線から整備計画路線への格上げを目指し、官民一体で運動を加速化していく
- 2 奥羽新幹線及び羽越新幹線の整備に必要な財源の確保について、国等への働きかけを強力に行っていく



[設立総会の様子]

9月15日(木)、秋田市の「秋田拠点センターアルヴェ」において、本会主催による「新ものづくり・新サービス展」を開催し、ものづくり補助金活用企業のうち21社が、自社の技術やサービス、新商品を売り込もうと出展しました。

当日は、本会藤澤正義会長による挨拶の後、有限会社中里スプリング製作所(群馬県高崎市)の中里良一社長より、「プラス思考の企業経営法～ハンデをプラスに変える発想とは!??～」と題し基調講演が行われ、新聞や雑誌、テレビ等多くのメディアで取り上げられている当社のユニークかつ型破りな経営手法について、具体例を随所に交え講話がありました。

また、出展企業のうち、株式会社鈴木青果問屋(横手市)の鈴木雅博社長をはじめ、株式会社川瀬製作所(北秋田市)、株式会社アスター(横手市)の3社より、同補助金を活用したことで得られた成果についてそれぞれ事例発表がありました。

本会では今後も、「ものづくり補助金」の秋田県地域事務局として、同補助金を活用する中小企業・小規模事業者を積極的に支援してまいります。



[挨拶をする藤澤会長]



[成果を発表する鈴木社長]

秋田県産「山菜」の売上拡大と高齢者雇用の充実を目指す

～株式会社鈴木青果問屋～

今回は、「平成26年度補正ものづくり・商業・サービス革新補助金」により加工施設を整備し、秋田県産「山菜」の売上拡大と高齢者雇用の充実を目指す株式会社鈴木青果問屋(前掲「新ものづくり・新サービス展」での成果事例発表社)の取組内容についてご紹介します。

■これまでの経緯・課題

当社は、創業80年の老舗問屋として、出羽丘陵で採れる山菜の塩蔵・水煮の加工ならびに青果の卸売業を営んでいます。

創業以来、塩蔵した山菜を主に手作業で処理していましたが、従来の設備では大量受注の際に加工出来る数量が限られ、全ての素材を加工しきれないまま他の卸売業者へ販売していました。

結果として、県外の2次加工施設で商品として仕上がることとなり、「秋田県産」の表記が出来ず、大手百貨店や小売店からの受注を逃す場面が多々ありました。

■課題解決に向けた取組の内容

全ての受注に十分対応出来ないという課題を踏まえ、秋田県産の山菜を完全に自社加工できるよう、「ものづくり補助金」を活用し、ミニマルチスライサーをはじめとする5種類の機械装置を導入しました。

その結果、従来の約5倍のスピードで山菜をカット出来るようになるなど、作業効率の向上により最終加工作業の他県への流出を防ぐとともに、委託している山菜の採取増量を地元の高齢者に依頼することができ、地域の高齢者を積極的に雇用する体制づくりが可能となりました。

－鈴木社長へ今後の抱負を伺いました－

当社では、日本一と言われる秋田県産の良質な天然物の山菜のみを取り扱っています。

良質な素材は、それを取り扱う人達との信頼関係の中から生まれてくるものと信じ、山菜の採取に精通した地域の高齢者を当社のスタッフとして大切にし、採取から加工まで丁寧に取り扱った山菜を自信をもって出荷しています。

この度、「ものづくり補助金」を活用出来たことにより設備を新たに導入することができ、大変感謝しています。

今後は、天然物の山菜の美味しさをそのまま消費者へ届けるため日々研究を重ねていくとともに、新たな設備の導入を契機に自社の売上拡大を図りながら、地域の高齢者を積極的に雇用し地域活性化の一翼を担ってまいります。

【企業概要】

- 代表者 鈴木 雅博
- 所在地 横手市条里三丁目7番22号
- 業種 卸売業
- 資本金 10,000,000円
- 従業員数 6人
- ☎0182-32-8255 FAX 0182-32-7192

中小企業組合等支援施策情報

「平成28年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」が閣議決定されました ～平成28年度官公需確保対策地方推進協議会が開催～

政府は、8月2日に『平成28年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針』(以下「基本方針」という。)を閣議決定し、官公需における新規中小企業を含む中小企業・小規模事業者の受注機会増大のための措置を講じています。

9月9日(金)、秋田市の「アキタパークホテル」において平成28年度官公需確保対策地方推進協議会(主催：東北経済産業局)が開催され、発注者側である国の各機関や秋田県、各市町村のほか、受注者側である本会会員組合など24名が出席しました。

会議では、東北経済産業局産業部中小企業課より基本方針の内容について説明がなされたほか、秋田県産業労働部産業政策課より、秋田県の官公需に関する中小企業との契約状況に

ついて、直近3年間の契約率は9割を超える高水準を維持しており、平成27年度は93.3%の実績となっている旨の報告がありました。

また、本会より秋田県の官公需適格組合(全5組合)の活動状況等について説明を行い、民主的かつ適正な運営を行っている事業協同組合等を官公需の発注先としていただけるよう、国、県及び各市町村の出席者へ働きかけを行いました。



[会議の様子]

『平成28年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針』における中小企業・小規模事業者向け契約の実績及び目標

	平成27年度実績	平成28年度目標
官公需総額	7兆1,052億円	7兆0,442億円
中小企業・小規模事業者向け契約金額	3兆6,316億円	3兆8,791億円
中小企業・小規模事業者向け契約比率	51.1%	55.1%

「2016年版中小企業白書」概要のご紹介(2)

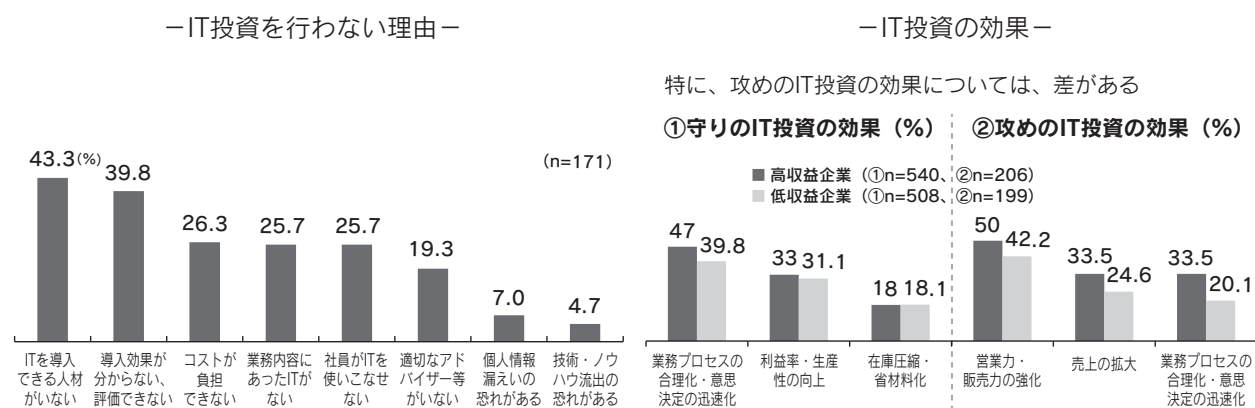
中小企業・小規模事業者の景況が緩やかな回復基調にある中で、国内市場の縮小や人材不足、設備の老朽化など、様々な環境変化や課題も顕在化しています。

「2016年版中小企業白書」では、こうした状況の中、稼ぐ力を強化し、「多様で活力ある成長発展」を目指す中小企業の実践について分析しています。

前月号に引き続き本号では、「2016年版中小企業白書概要」のうち、「稼ぐ中小企業の実践」、「中小企業の成長を支える金融」、「中小企業の経営力」の概要についてご紹介します。

◆ 稼ぐ中小企業の実践 - IT投資 -

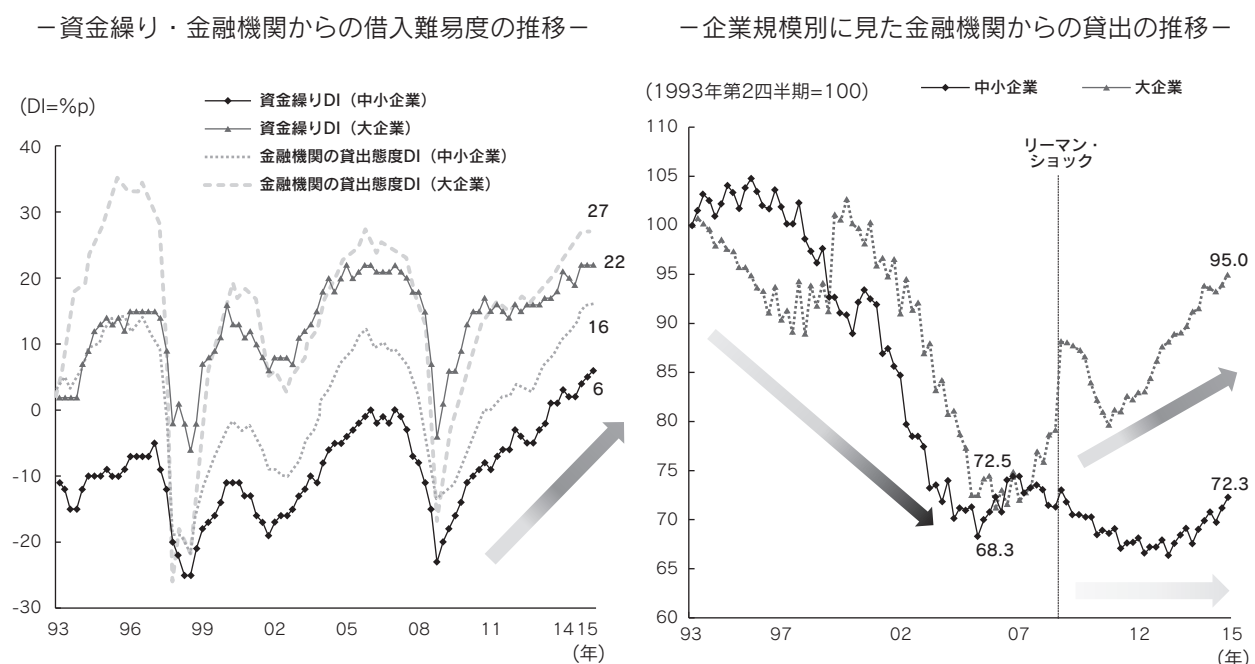
中小企業の課題の中には、自社の経営状況の的確な把握など、IT活用が解決策となり得ると考えられるものもあるが、人材不足や効果がわからないこと等を背景にIT投資が進んでいない。それに対し、高収益企業では、IT投資により、営業力強化や売上拡大等の効果を得ている。



[出所：2016年版中小企業白書概要(中小企業庁)]

◆ 中小企業の成長を支える金融 - 金融機関からの貸出状況 -

中小企業が成長投資を進めるためには資金供給が必要。現状、中小企業の資金繰りや、中小企業に対する金融機関の貸出態度は改善傾向にある一方で、金融機関から中小企業への貸出は、大企業ほど伸びてない。



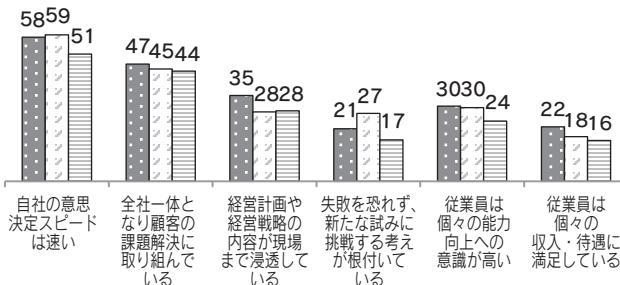
[出所：2016年版中小企業白書概要(中小企業庁)]

◆ 中小企業の経営力 - 経営者の特徴 -

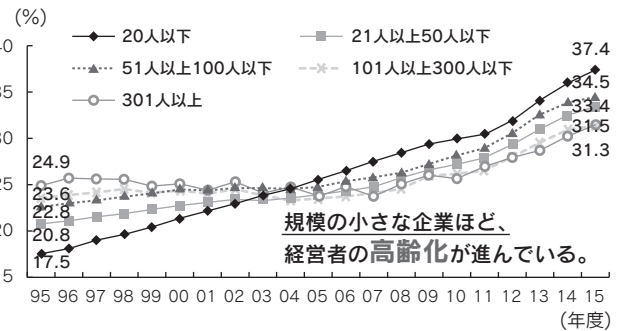
企業風土については、高収益企業の方が、計画的かつ積極的に新たな試みに挑戦する傾向がある。また、投資行動を決定する経営者の年齢に着目すると、中小企業の経営者は高齢化してきており、新陳代謝が進んでいないことがわかる。

－企業風土－

(%) ■ 稼げる企業(①)(n=757) □ 経常利益率の高い企業(②)(n=730)
 □ 自己資本比率の高い企業(③)(n=695)



－経営者年齢の高齢化比率の推移(従業員規模別)－



規模の小さな企業ほど、
 経営者の高齢化が進んでいる。

[出所：2016年版中小企業白書概要(中小企業庁)]

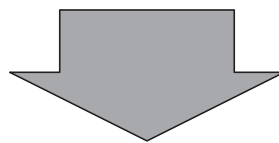
中小企業の稼ぐ力 まとめ

1 稼げる中小企業の取組

- 2016年版中小企業白書では、中小企業の稼ぐ力に注目。稼ぐための取組は様々だが、そのうち、IT投資、海外展開、リスクマネジメントの3点を分析した。
- こうした取組を行い、稼いでいる企業には、経営者が①ビジョンを明示し、②従業員の声を聞きながら、③人材育成、④業務プロセスの高度化などを行うことにより、さらに生産性の向上につなげているという共通点があった。また、共通の課題として、人手不足があった。

2 中小企業の成長を支える金融

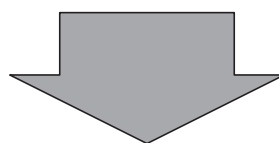
- 無借金企業の割合が増えているが、適度な借入れのある企業の方が収益力がある。
- 成長投資を行うために必要な資金供給元となるのは金融機関。
- 金融機関借入に当たっては現在の財務内容や資産余力などが評価されている。



事業性評価に基づく融資を実現するためには、金融機関側は、他の支援機関と連携した支援を行う姿勢への転換が、企業側は、事業計画等を積極的に金融機関に伝えることが重要。

3 稼げる中小企業の経営力

- 低収益企業は投資に保守的な傾向が見られるが、高収益企業は、計画的かつ積極的に投資を行い、リスクへの備えも行っている。
- 経営者が交代していない企業より、経営者が交代した企業の方が収益力が高い。



経営者が理念を明示し、金融機関等外部専門家と連携しながら、現場の意見を聴いて組織的な経営を行い、成長投資と新陳代謝を進め、稼ぐ力を向上させていくことが重要。

景況レポート

(8月分・情報連絡員80名)

業界全体の景況感が3ヶ月ぶりに改善

【概況(全体)】

8月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが13.8%(前回調査7.5%)、「悪化」が36.3%(同38.8%)で、業界全体のDI値は-22.5となり、前月調査と比較し8.8ポイント上回り、景況感は3ヶ月ぶりに改善した。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、製造業は依然として大幅に上回っており、非製造についても建設業・運輸業などが好調に推移したことにより改善し、全体の景況DI値を押し上げた。

【業界別の状況】

業界別では、繊維工業が季節製品の受注の増加等により業況が改善したほか、サービス業、建設業、運輸業でも回復傾向が見られた。一方、食料品では、猛暑の影響から業況は低調に推移した。なお、全体の景況感としては、依然として需要の減退や個人消費の低迷等により景気回復を実感出来ない状況が続いており、また国内消費の減退と円高・デフレ動向も改善する兆しが見えないことから、引き続き中小企業の先行きは注視していく必要がある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-22.5	-30.0	-25.4
製 造 業	-18.8	-30.4	-23.3
非製造業	-25.0	-29.6	-26.6

＜景況天気図＞

項目 業種	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30超 10未満
 雨 △30以下
 雷雨 △30以下

【天気図の見方】

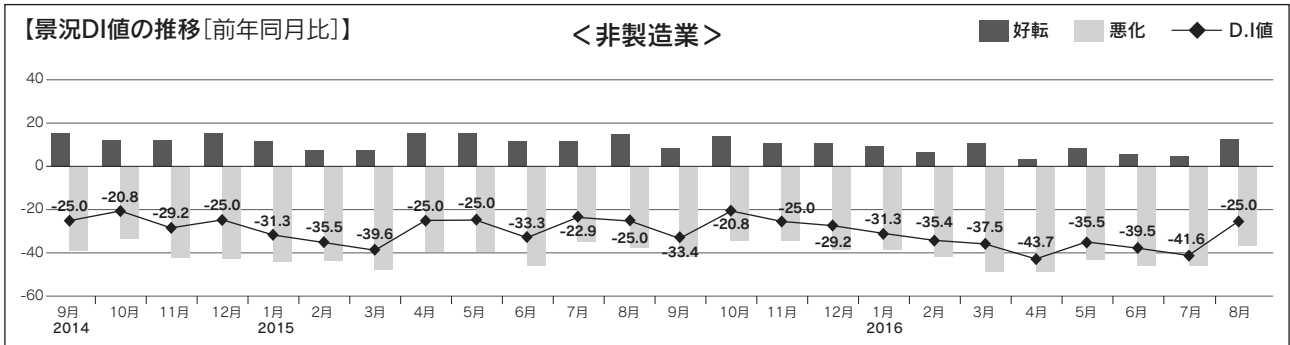
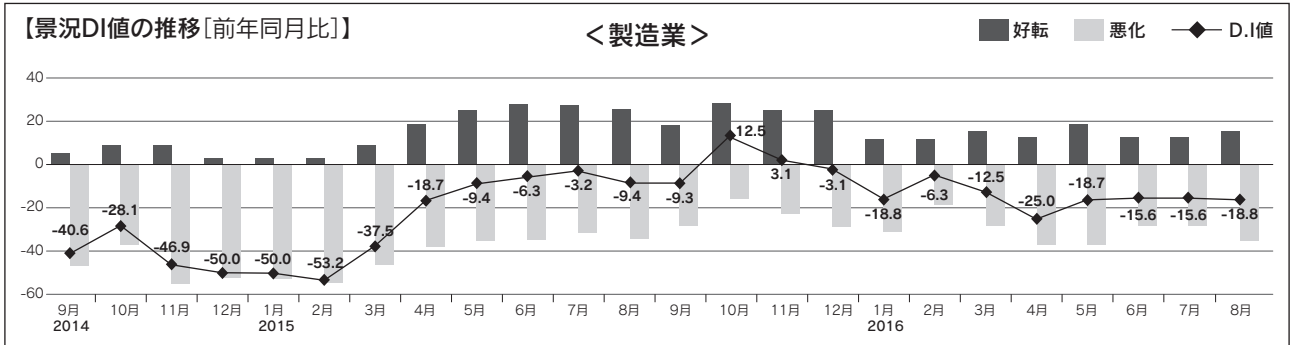
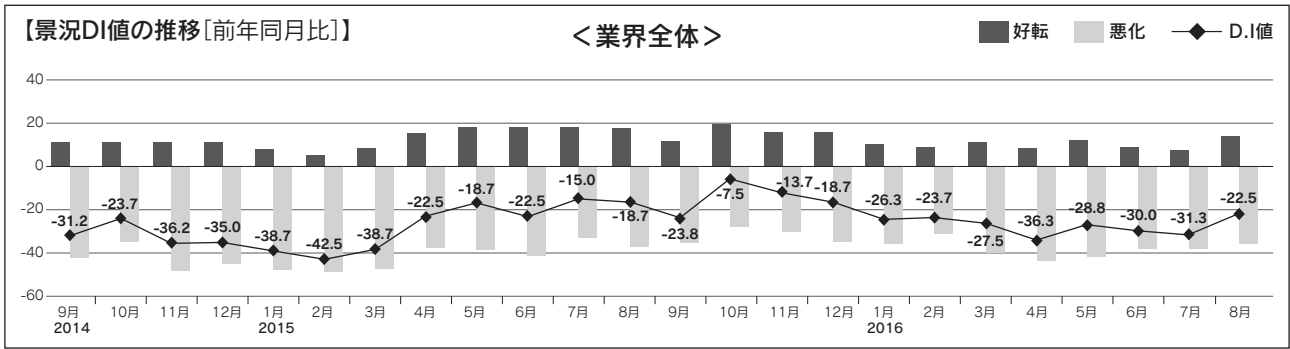
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (菓子)	お盆の帰省や竿灯祭りなどの開催により、土産品などの売上があった。しかし、夏場は菓子業界にとって客離れの傾向があり、依然として景気は低迷している。
繊維工業 (ニット)	秋冬物の受注が順調に推移している。新規の問い合わせが多いが、求人難のためキャパシティを増やせず新規取引を見送ることが多い状況である。
繊維工業 (繊維)	全体的に、秋冬物製品の動きが良くなってきている状況にある。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	7月～8月の売上高は、前年と同額で推移している。製品販売価格の引き下げ要請が強く、景気回復の気配は感じられない。(中央地区)
木材・木製品 (素材生産)	4月の秋田プライウッド向浜第二工場の火災の影響が一段落したことや、向浜のバイオマス発電所が本格稼働したことから原木の消費は進んでいるが、前月同様に在庫が多い状況にあり、生産量、価格ともに横ばいで推移している。
印 刷	仕事の件数や単価の下落により、景況が良くないことに変わりはない。(県南地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	8月の出荷数量は、前年同月比83.1%、4～8月の累計では前年比88.3%となった。昨年度、過去最低の数量(647,736m ³)となったが、今年度は想定数量(642,000m ³ ・前年比99.1%)を更に下回り、580,000m ³ (前年実績比89.5%)前後の厳しい数量が予想される。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	8月は各組合員企業とも生産性が高く、今後も受注物件が確保されている。なお、稼働率も高水準で推移している。
一般機器 (金属加工)	業況は、総じて活発に推移しており、前年度を上回る売上を計上している企業が多く見られる。しかし、価格や納期等の取引条件は、依然として厳しい状況である。
その他の製造業 (漆 器)	8月6日～8日、湯沢市の七夕祭りに併せ、企画展「秋田県のこけし展」を開催したところ、こけしブームでもあり、来館者が多く売上也増加した。8月14日には商工会青年部と共同で恒例の「蔵出し市」を開催し、子供向けの企画などで家族連れを集客を図ったが、思ったより人出が少なかった。一方、お盆休みや西馬音内盆踊り、大曲の花火の見学者が立ち寄り工芸館の売上は昨年より増加した。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果卸) 8月の売上は、前年同月比90.9%で推移した。野菜の生産地によっては、高温のため水不足であったり、集中的豪雨により壊滅的な被害を受けているところもあり、野菜不足や価格の高騰に繋がっている。

小売業 (共同店舗) 8月は、前年同月比で売上、客数ともにそれぞれ16%減少した。各部門別の売上も総じて減少となり、厳しい状況となった。(能代市)

小売業 (電機) 全体ではほぼ前年並みの売上となったが、猛暑の影響からエアコンの売上が好調であった。

商店街 8月はイベント等の開催により、売上が若干増加した組合員店舗もあったが、総体的に収益は減少傾向にある。(秋田市)

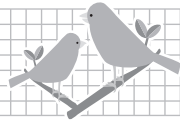
夏のセールが終了し、昨年度と比較し人数・抽選本数がそれぞれ増加した。景気回復を実感している加盟店はないが、多少でも販売促進として効果をもたらしている。(大館市)

サービス業 (自動車整備) 8月の自動車検査台数実績は、前年同月比で登録車が8.3%、軽自動車が11.5%それぞれ増加し、全体で9.6%増加となった。整備比率をみると、登録車が59.41%、軽自動車が40.59%と、4月期と比べ登録車が4.6%上回り、若干ではあるが回復傾向にある。

建設業 (電気工事) 連日の猛暑により、エアコンの需要が多かったため、例年になく多忙となった。新築住宅や増改築は前年並みに推移している。(秋田市)

運輸業 (トラック) 8月の貨物状況は回復してきており、売上は前月、前年同月比ともに増加傾向にある。収益状況も前月、前年同月比ともに約10%増加している。燃料価格は、現在は安値のため好調だが、9月は値上げの見込みとなっている。(県南地区)

その他の非製造業 (砂利採取) 繁忙期を迎え、公共工事等の発注が多くなっているが、リサイクル材の使用が多いため路盤材等は依然として鈍い状況である。(県南地区)



中央会事業より

車体整備業界として今後取り組むべき方向性を研究

～青年部研究会事業を開催(秋田県自動車車体整備協同組合)～

車体整備業界では、新車登録台数の低迷や人口減少による市場全体の縮小が進み、今後、企業経営・事業継続が困難な時代となることが予測されています。

そこで、秋田県自動車車体整備協同組合青年部会(阿部隆会長)では、当業界が取り組むべき方向性を研究するため、9月16日(金)、秋田市の「秋田キャッスルホテル」において青年部研究会事業を開催し、会員等18名が出席しました。

講師を務めた株式会社アドガレージ(東京都)の伊倉大介社長は、自社の板金塗装工場で培った経営ノウハウをもとに、2030年に生き残るための企業経営の考え方について、「経営に必要な5つの視点は、『企業理念、人事管理、財務管理、業務管理、集客』であり、これらを常に見直し、ヒト・モノ・カネという限られた資源を効率的に使い、成長を遂げていくことで2030年の工場の姿が決まる。」と自らの持論を展開され、出席者は講師が準備した「曼荼羅シート」を用い、自社が取り組むべき内容をシートに書き込み、頭の中を整理しながら

次の行動ステップを明確化(見える化)するための手法についても学びました。

出席者からは、「何事にも企業ビジョンを想像し、それに向かって未来を切り開くことに感銘を受けた。」「『曼荼羅シート』により、自社の問題点や解決するための方向性が見えた。」といった前向きな意見が寄せられ、当青年部会では当事業の実施を契機に、自社の発展に向けた改善を具体的かつ危機感をもって実践していくことにより、今後も安定して事業を継続できるよう取り組んでいくこととしています。



[講師を務めた伊倉社長]

生地不良における修正作業の基本技術を習得

～組合技能・技術養成事業を開催(能代山本繊維協同組合)～

県内の縫製工場では、アパレルメーカーより納品された反物生地を使用して衣類製品の製造を行っています。反物は納品時に検査をしますが、製造段階や完成品検査の段階で不良箇所が発見されることがあり、再び裁断・縫製する場合の製造ラインの組み直しなどといった問題に対する縫製工場の負担軽減が課題となっています。

そこで、能代山本繊維協同組合(嶋田與次郎理事長)では、9月23日(金)、能代市の「能代工業団地交流会館」において組合技能・技術養成事業を開催し、組合員工場の若手従業員など26名が出席しました。

研修会では、アスナロ株式会社(宮崎県)の富山豊氏が講師を務め、生地の不良原因の約3分の1を占めるプリントミスについて、工場内で修正作業(インキング)を行うための知識のほか、顔料を使った色の調合や生地への染色作業、エアブラシの使い方といった基本技術に

関する実技研修を行い、出席者は今まで具体的な対応を取ることが出来なかった生地のプリントミスによる製品不良時の対処方法を具体的に習得することが出来ました。

当組合では、今回の研修を通じ、組合員工場の若手従業員が確実に技能を習得することにより、各工場における負担軽減につなげていくこととしています。



[実技研修の様子]

■東北の「心」をひとつに

～第65回東北六県再生資源組合連合会秋田大会が盛大に開催～

9月9日(金)、秋田市の「秋田キャッスルホテル」において、日本再生資源事業協同組合連合会の中核組織として業界の体質強化と安定的な経営基盤の確立に取り組んでいる東北六県再生資源組合連合会の第65回秋田大会が盛大に開催され、本会伊藤邦夫専務理事をはじめ来賓や関係者など東北各県から約180名が出席しました。

第一部の通常総会では、当連合会小野寺盛会長(秋田県再生資源商工組合理事長)より、「業界を取り巻く経済状況は数年前から世界経済に翻弄され、困難に直面しながらも一筋の光を求め苦難と戦っている。本大会を通じ、互いに緊密に情報交換をしつつ、明日からの英気を養ってほしい。」と挨拶があった後、多年にわたり業界の振興に寄与した功績を称え、業界功労者に対し当連合会より表彰状が授与されました。

その後、来賓を代表して富樫博之総務大臣政務官より当連合会の更なる発展を祈念する旨の祝辞が述べられたほか、佐竹敬久秋田県知事より本大会を祝うメッセージが届けられ、続いて古仲環秋田市産業振興部商工貿易振興課長、本会伊藤専務理事よりそれぞれ祝辞が述べられました。

引き続き審議が行われ、平成27年度事業報告書、収支決算書が満場一致で承認されたほか、平成28年度事業計画及び収支予算案などが原案どおり可決され、任期満了による役員改選では、新会長に紺野正博氏(福島県再生資源商工組合理事長)が選出されました。

そして、東日本大震災と福島第一原発事故により大きく崩壊した地域社会の回復に向け、当業界として積極的に行動していくとする大会決議が満場一致で採択されました。

なお、通常総会終了後には、秋田県立新屋高等学校吹奏楽部による記念演奏が行われ、引き続き開催された懇親会では、随所に歓談の輪が見られ、終始和やかな雰囲気のうち、本大会の開催を盛大に祝いました。



[大会の様子]

支援団体活動レポート

気づかないうちに迫るセキュリティの危機対策を学ぶ

～平成28年度第1回研修会が開催(秋田県中小企業組合士会)～

9月21日(水)、秋田市の「第一会館本館」において、秋田県中小企業組合士会(堀川深雪会長)の平成28年度第1回研修会が開催され、中小企業組合の要である事務局の充実・強化を図る観点から、秋田県中小企業団体事務局協議会(佐藤弘幸会長)にも広く参加を呼びかけ、両団体より会員等37名が出席しました。

研修会では、独立行政法人情報処理推進機構技術本部セキュリティセンターの坂本ゆみか研究員より、情報セキュリティに関する最近の動向や被害事例などが紹介され、特に、内部不正による情報漏えいの危険性とその対策について、企業機密が実際に漏えいした広告会社の具体的な対応事例を交えた説明がありました。

坂本研究員からは、「情報漏えいが発生した場合は、自分で判断せず即座に上司に報告するなど、二次・三次被害を起こさないための初動対応が大切であるため、予め対応内容を企業として決めておく必要がある。改正個人情報保護法の施行を来春に控え、情報セキュリティに関する社会的要請が高まっている中で、企業における情報セキュリティ対策をむしろ『強み』と

して取引先へアピールすることで、企業の競争力強化につなげてもらいたい。」とのアドバイスがあり、出席者にとっては、身近に起こり得る情報漏えいの脅威について具体的に学ぶことができ、情報管理の大切さを再認識した研修会となりました。

なお、独立行政法人情報処理推進機構では、企業における情報セキュリティ対策の現状を把握することができる「5分でできる自社診断シート」を以下のホームページで公開していますので、是非参考にしてください。

[ホームページ]

<http://www.ipa.go.jp/security/manager/known/sme-guide/sme-shindan.html>



[講師を務めた坂本研究員]

中小企業向け個人情報保護法説明会を開催します(秋田県)

平成27年9月に改正個人情報保護法が公布され、来年春頃に全面施行されます。

これまでは「保有する顧客や従業員の個人情報(氏名・住所・生年月日・電話番号等)の数が5,000人分以下の事業者」には個人情報保護法が適用されませんでした。今回の改正により個人情報を事業に活用するすべての事業者に個人情報保護法が適用されることとなりました。

つきましては、新たに個人情報保護法の適用を受ける中小企業者や小規模事業者等の皆様を対象とした、個人情報の取扱いに関する基本的なルールをご紹介します説明会を開催いたしますので、この機会を是非ご活用ください。

[開催日時・開催場所]

◆大館会場
11月15日(火) 13:30～15:30
 ホテルクラウンパレス秋北 2階「孔雀の間」
 (大館市片町7)

◆秋田会場
11月16日(水) 10:00～12:00
 秋田ビューホテル 4階「飛翔の間」
 (秋田市中通二丁目6-1)

◆横手会場
11月16日(水) 14:30～16:30
 横手セントラルホテル 2階「翔光の間」
 (横手市平和町9-10)
 ※会場の駐車場には限りがありますので、公共交通機関等の利用にご協力をお願いします。

[定員]

250名(先着順)
 ※定員になり次第、申込を締め切らせていただきます。

[対象]

中小企業者、小規模事業者、個人事業主
 その他ご興味のある方

[参加費] 無料

[参加申込締切] 11月8日(火)

[お問い合わせ・申込先]

秋田県 産業政策課 企画班
 ☎018-860-2214

秋田県の最低賃金が改定されます(秋田労働局)

10月6日(木)より、秋田県の最低賃金が現在の695円(1時間あたり)から21円引き上げられ、716円に変わります。

☞ 最低賃金は臨時、パート、アルバイト等、県内のすべての労働者に適用され、最低賃金額以上の賃金を支払わないと、最低賃金法違反となります。

☞ 賃金は、精皆勤手当、家族手当、通勤手当、時間外手当、賞与等を除いた額が最低賃金額以上でなければなりません。

☞ 月給や日給の場合は、時間額に換算したものが最低賃金額以上でなければなりません。

詳しくは、秋田労働局賃金室または最寄りの労働基準監督署へお問い合わせ下さい。

[お問い合わせ先]

秋田労働局 労働基準部 賃金室
 ☎018-883-4266

秋田県の最低賃金 (1時間あたり)

716円

発効日 平成28年10月6日

締切迫る!「平成28年度中小企業組合検定試験」の受験者募集中

全国中小企業団体中央会では、中小企業組合役職員の資質向上と組合士制度の普及を目的に、来る12月4日(日)に中小企業組合検定試験を実施します。

本試験に合格し、組合等で3年以上の実務経験を有する方は、全国中小企業団体中央会から組合運営のエキスパートである「中小企業組合士」として認定されます。

願書の受付期間が10月14日(金)までとなっていますので、受験を希望される方はお早めにお申し込み下さい。

- 試験科目:「組合会計」、「組合制度」、「組合運営」
- 試験日:平成28年12月4日(日)
- 試験場所:秋田市「秋田県社会福祉会館」
- 受験料:5,000円
 (一部科目免除者は3,000円)

今年度も「受験対策講座」を実施します

本会では、今年度も試験前の受験対策講座を下記により実施します。本講座は、組合事務局の資質向上や日常業務の参考となる内容となっていますので、組合役職員の皆様におかれましては、是非ご参加下さい。

◆開催日

第1回:平成28年10月27日(木)
 第2回:平成28年11月8日(火)

◆開催時間

両日とも 10:00～16:10

なお、本講座の詳細につきましては、本会商業振興課までお問い合わせ下さい。

[お問い合わせ先]

本会 商業振興課 ☎018-863-8701

官公需適格組合
『カデル』

秋田管工事業協同組合

理事長 本多 秀文
副理事長 松木 文雄
" 太田 博之

秋田市山王臨海町3番18号
☎018(862)6161/FAX 018(824)5685

もう一工夫して、
新たな時代へ

千代田興業株式会社

代表取締役社長 藤澤 正義

本社・工場：秋田市川尻町字大川反170-49
TEL 018(864)6200(代)
建設事業部：秋田市川尻町字大川反170-19
TEL 018(888)3666
URL : <http://www.k-chiyoda.jp>

 秋田県信用保証協会 <http://www.cgc-akita.or.jp>



展示会等を視察する企業を募集しています
くわしくはホームページへ

保険とリース、相続・事業承継の
ご相談はお気軽にどうぞ!!

保険&リース
 株式会社 北日本ベストサポート

〒010-0967
秋田市高陽幸町8番17号
TEL.018-883-1888
FAX.018-883-1822
URL <http://www.knbs.jp>

全国中小企業団体中央会 会員の皆様へ
日本商工会議所 会員の皆様へ

業務災害補償制度



AKITA HOKEN

保険と暮らしの相談センター

URL <http://akitahoken.co.jp>

株式会社 アキホク保険

秋田本社

☎018-864-6921
〒010-0951 秋田市山王6丁目5-9
FAX : 018-864-6922

フレスポ
本荘店

☎0184-24-5511
〒015-0011 由利本荘市石脇字田頭141-1
FAX : 0184-24-5512
SJNK15-19728 (2016.3.30作成)



 30th Anniversary

秋田駅直結のベストロケーション

ご宿泊・ご婚礼・ご宴会・レストラン・バーなど
あらゆるリクエストにお応えいたします。

 ホテルメトロポリタン秋田

〒010-8530 秋田市中通七丁目 2-1
TEL.018-831-2222

For Earth, For Life
Kubota

野菜と暮らそう。



まごころと技術でこたえる・・・

株式会社 秋田クボタ

〒011-0901 秋田市寺内字神屋敷295-38
Tel: 018-845-2121 Fax: 018-845-6600

株式会社 八幡平貨物



一般区域貨物自動車運送
原木・木材の伐出及び仕入・販売

秋田県鹿角市八幡平字谷内下毛平116-12
TEL 0186-34-2011
FAX 0186-34-2013

出向・移籍の専門機関

公益財団法人 産業雇用安定センター

従業員の再就職や出向を無料で支援します

人材を必要としている企業の皆様へ

「即戦力の人材を
全国からご紹介します」

「出向者を受入できる
事業所を募っています」

雇用調整を検討している企業の皆様へ

「グループ以外への出向で
雇用を守ります」

「従業員様の再就職先さがしを
無料でサポートします」

公益財団法人産業雇用安定センターのプロフィール

- 経済・産業団体と厚生労働省の協力で設立された公益法人です
- 全国ネット、47都道府県の事務所でサポート
- 費用はかかりません



公益財団法人産業雇用安定センター
秋田事務所

〒010-0951
秋田県秋田市山王3丁目1-7 東カンビル4階
TEL.018-823-7024 FAX.018-883-4215